

公共施設・インフラ

エルサルバドルの様々な公共施設・インフラにおいて、日本の支援を垣間見ることができます。

日本は、1990年以降、草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じ、診療所、交番、学校、飲料水インフラなど、多くの公共施設・インフラを建設・改修してきました。また、2012年度医療機材ノン・プロジェクト無償資金協力を通じ、公立病院に日本製の優れた医療機材が供与されています。



日本の援助で建てられた学校の子供達



ブルーム・小児科病院に供与された MRI



日本の援助で建設された交番

こうした施設・機材に関する支援は、「病院前診療の能力強化プロジェクト」、「地域警察活動に基づく新警察モデルの実施強化プロジェクト」、「初中等教育算数・数学指導力向上プロジェクト (ESMATE)」や草の根スキームの「エルサルバドル国立女性病院における科学的根拠に基づいた人間的出産プロジェクト」といった技術協力と相乗効果を生み出し、効果的な協力が実施されてきています。

その他、エルサルバドル国際空港の建設や、内戦・災害からの復興のための送電網、橋、道路等の整備、またラ・ウニオン港の再建などが日本の有償資金協力の下で実施されています。



1980年に完成し、今日に至るまで中米最大級のハブ空港として、
中米地域の発展に貢献しているエルサルバドル国際空港